

根性と责任感

想 随



鈴木正恵

四年前のことである。先輩である保原町公民館長の佐藤先生から電話があり、町内五つの幼稚園で母親を対象に家庭教育学級を開くことになったので講師をお願いする、担当する主題は、「現代の子に根性や責任感を身につけるにはどうすればよいか」ということで、一時間の講話と三十分の話し合いを持つ、そしてこの主題にはお前が最も適任であるという。まことに恐れ入ってしまった。

退職後、今の仕事をさせていただきながら、時おりボランティアのつもりで婦人学級や母と子の水泳教室、スクール教室などのお手伝いをしていたがひとの前で格式ばつたお話をするとといふことなどは初めてのことであった。私は人間の生き方の心構えとして、

「言行一致」ということを考え、生活信条の一つともしてきただが、ひとの前で話をする。しかも根性や責任感を養うというよくなとてつもないことについて考え方を述べることなど、顧みて内心忸怩たるものを感じ得なかつた。

我が国には「遠くの神様はありがたい」という考え方がある。中学三年のPTAがバスを連ねて遠くの文殊様にお参りに出かけたり、○○学級、○○研修会などでは遠くから権威者といわ

れるかたを講師にお願いして、話を聞くといふようなことなどがよくみられる。それはそれなりに意義のあることであろうが、幼稚園の子供たちのこと

で私は何を話したらよいのだろうか。なんのカルテも持たない者の話は、とにかく一般的、抽象的に流れるのがお

ちである。園児一人一人のカルテを持っているのは担任の先生であり園長である。そういうかたの話こそ具体的で役に立つのが、遠くの神様らしい私の話などはどんな効果があるのだろうか。たまには身近な話から離れて一般論を聞くことも、自分の考えややってることを広い視野から反省してみる機会になるのだろうと、自分なりに心にきめてとにかく引き受けることにした。以来四年、「根性と责任感を身につける」という同じ主題でお母さんがたの前に立たされている。まことに根性のいることである。自分がながら厚かましいと思うとともに、館長さんのご期待にこたえているのだろうかと反省もさせられている。

四年目になつて、私が具体例を交えて話した内容は要約すると次のようないふことである。

一、このようにすばらしい自然環境と学級の園児の数の少ない恵まれた条件の中での、教育の効果があがらないなどと言われたら、それは先生と家庭の責任であるといつても過言でないこと。

二、根性や责任感を身につけるには、未分化の幼児時代では特別にそれだけをとりあげて対処することは無理で、全生活の中で考えていくことが大事であること。

三、幼稚園は計画的に教育を行うところであるから、根性や责任感を身に

つけることについては十分に配慮していること。

四、そうすると問題はどうしても家庭について私はこんなふうに考える。

(+) 結果も大切だが、それと同時にいやそれ以上にそれに至る過程を大事にする生活態度。その中にこそ根性や责任感を養うチャンスは数多くある。

(+) 何事も出来るだけ自分の力でひとりでさせる。そのための条件づくりは発達段階に応じて親が考へることである。

(+) ひとりで取り組んでいくためには、だれがいてもいなくても、やつてよいことと悪いことのけじめをしつかりと心に刻みこませる。宗教的な考え方、家庭のきまりを守ることなどが手がかりになる。

(+) 世の中には金より大事なものがいっぱいある。それは根性や责任感などにかかるが大きい。

こんなことを考え、ささやかでもいい家族みんなで実践している家庭。しかし人間の弱さは恐らく失敗の連続であろう。そんなときの救いはお母さんの笑顔とユーモアである。くじけずがんばってほしいと結ぶ。いやはや汗顏の至り。でも「先生また来てくださいね」などと言われると不思議に責任を感じるからおかしいものである。